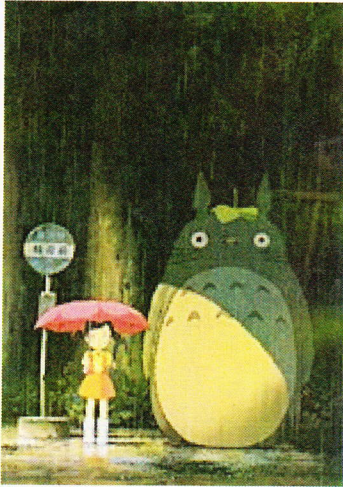


京都大学理学部植物園見学会「トトロを探そう！」2008年7月9日

京都大学こころの未来研究センター・鎌田東二

1、「トトロ」とはなにモノか？



- ①「ドングリ」から始まる。ドングリの発見と「トトロ＝神」との出会い。ドングリは縄文人の主食。ドングリのアク抜き⇒縄文土器
- ②「トトロ」とは何者か？「森のヌシ＝神」。いつも会えるとは限らない存在。不思議な力
- ③「トトロ」の棲む場所＝大楠の洞一楠は神木。注連縄による聖別。
- ④日本の神の原像＝「森のヌシ」（考古学者・草壁パパの言葉）
- ⑤ヌシ神（主神）としての大国主神・大物主神・事代主神（言代主神）・一言主神
- ⑥動植物としての神＝注連縄を張った巨大な楠と楠のムロ（室）に棲む動物トトロ
- ⑦動物の神・蛇の神としての大物主神（三輪山・大神神社の神）、伊吹山の神＝白猪（古事記）・大蛇（日本書紀）

2、「となりのトトロ」(1988年)/「もののけ姫」(1997年)/「千と千尋の神隠し」(2001年)の比較宗教学

- ①日本の神々および宗教文化の原風景・原像としての『となりのトトロ』
 - ②日本の神々および宗教文化の弱体化・衰退と蘇りの希求としての『千と千尋の神隠し』
 - ③日本の古層の神々の死＝神殺しと時代の苦悩としての『もののけ姫』【森の神々——シシ神、猪（乙事主）、山犬（モロ）、そして山犬に育てられた少女サン（もののけ姫）】
- * 宮崎駿はなぜ日本の神々の世界を執拗に描くのか？
- * アニミズム宗教文化への愛着と危機感（アニミズム・シャーマニズム・トーテミズムへの親和性）
- * 自然と人間および文明社会との葛藤と共生の模索『風の谷のナウシカ』（1984年）の主題

3、京大植物園と周辺の山々～吉田山(神楽岡)/吉田神社と東山三十六峰と東山修験道

- ①大元宮を作った唯一宗源神道の創始者・吉田兼俱（応仁・文明の乱の頃に活躍）
- ②生態植物園としての京大植物園と東山三十六峰の生態系（比叡山と猿、御蔭山と下鴨神社のみあれまつりと双葉葵、狸谷山不動尊と狸（?）、稲荷山と狐）
- ③東山修験道（参照：鎌田東二『聖地感覚』角川学芸出版、2008年9月中旬刊）